

俺のモノ!

M・I・N・E

金沢有偉





「……試してみるか？」

「え？」

「俺が上手いか下手か、碧が自分で経験すればいいんだよ」
碧が何を答える間もなく近づいたのは、八神の端正な唇だった。

俺のモノ！

《立読み版》

金沢 有倅

イラスト 金沢 有倅

「チョーラツキーっ！ 八神の写真集、もう出てる！ 買うっ！」

場所は恵比寿の大型書店。レジ側の特設コーナーでこれでもか、と自己主張するそれに、桂木碧の同行者であるクラスの女子が勢いよく飛びついた。

フェロモン溢れる華やかなアップをうっとり眺める……思わず、碧が後ずさりしてしまいそうな迫力だ。

「え？ 八神い？ って……あの、俳優の？」

「こいつ、今視聴率トップドラマの『LOVE PASSION』主役だよな？ うちの姉貴がすげー入れ込んでるぜ。部屋中ポスターだらけ。……すげー人気なんだよな、いろんなコマーシャルに出てるし」

続いてやって来た、荷物持ち要員である村井と岩城も頷き合う。

——納得できないのは、碧だけだった。

「趣味悪いよ、ヤダヤダ。八神のドコがいいわけ？」

「何よ、桂木、ケンカ売ってんの？」

碧の呟きに対し、ケンカを買ったのはむろん、八神の写真集を胸にしっかりと抱く女子だ。

「桂木はさ、そーいう見た目でもしよせん男だから判らないんだよーっ。八神はね、現役のまま国立大も卒業して、『才色兼備』さいしよくけんびを地でいつてんのよ！ しかもうちの学校出身よ？ それであの『M/F』メンズファン誌の元・看板で、パリコレ経験もあるトップモデルで、演技できるし二年連続『抱かれない男NO・1』だし……っ」

「あーはいはい、落ち着け、な？」

「確かに、八神はめちやくちやカツコイイよ、男の俺らですらそれは認める」

岩城と村井が女子を抑えて宥める。なだ……しかし、碧の心中は穏やかではない。

「……そーいう見た目ってーのは、何だよ……」

「女の子以上に華奢きゃしゃで可愛いって誉めてんのよ。喜びなさいよ」

「ムカ」

「言えるかも……」

「ぶち殺すぞ、おまー」

しかも同意までしやがる村井を、碧は持っていた本で殴なぐってやった。見た目は碧の地雷なのだ。女子も村井たちも当然それは知っている。

「まあまあ、碧。悪気はねーんだから落ち着け」

「確かに八神っていやー、今イチバン女に人気あるんだしさ。ファンの前で、悪口言うお前が悪いぜ？

……何で嫌いなんだ？ 八神のコト」

「自分がない、男の色気あるから妬^やいてんじゃないの？」

「うるせーっ」

女子がレジで会計——八神の写真集のである。文化祭の資料は岩城が買っている——を済ませて口を出すのに、碧は乱暴に舌打ちをする。

「性格悪そうじゃん。何かさ、人をバカにしていそーで……ムカつく」

「そうかあ？ あんま意識しねーけど」

「とにかく美形！ だからさ、同じ男として面白くねーのは事実だあな」

ズカズカとおしゃれな地下道を歩きながら力説すると、村井たちが苦笑する。

そんな可愛いモンじゃねーんだーっ！ とは口に出せない。……ジレンマの碧だ。

「あれ？ 混雑してる……？」

通路と連結しているカップルに人気のホテルに入れば、豪華なホールには何やら人混みができている。

何だろう、と首を伸ばせば、テレビの中で見たことのある機材が所狭しと置いてあった。

「撮影……？」

ゆえにそう思ったままを呟けば、耳ざとい村井たちがギツと人混みへ鋭い眼光を飛ばした。

「うそ！ マジ？ 誰？ 誰の？」

「有名人いるかもっ！ 探そう！ 前の方行くぜっ！」

「あ、おい……っ！」

碧以外の連中は、好奇心の赴くまま人混みへ突進してしまう。

おかげで碧は、ぼつねんと独りぼっちになってしまった。

※続きは製品版でお楽しみ下さい。

俺のモノ！

《立読み版》

発行日 2011年10月14日

著者名 金沢 有倅

イラスト 金沢 有倅

発行所 【MILK-CROWN】
ミル ク ラ ウ ン

株式会社水晶院

<http://www.milk-crown.net/>

(C) Ariko Kanazawa 2011

※本著作物の一部あるいは全部を無断で複写複製することは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。